

令和2年度 第2回 木材需給会議 資料の概要

1. 一般経済の動向 (資料1)

2020年4～6月期の実質GDP成長率(2次速報)は、前期比-7.9%(年率換算-28.1%)と戦後最悪のマイナス成長の記録を更新。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて内外需要が急速に冷え込んだことが原因で、中でも個人消費と輸出の落ち込みが大きかった。

緊急事態宣言の解除後は、経済活動の再開の動きが広がり、足元の景気はすでに最悪期を脱し個人消費や輸出を中心に持ち直しの動きがみられており、7～9月期の実質GDP成長率は、前期比+3.6%(年率換算+15.1%)と4四半期ぶりにプラスに転じる見込み。設備投資の減少は続くが、外食、旅行、レジャー関連への支出が回復し、特別定額給付金の支給などの政策効果もあって個人消費は持ち直す。また、中国をはじめとする海外での経済活動の再開や、世界的なIT関連需要の回復で、輸出は底打ちする。それでも、感染拡大防止と経済活動再開の両立をはかる中で、景気の回復は緩やかなペースにとどまる見込みであり、年度後半もプラス成長を維持するものの、2020年度通年での実質GDP成長率は前年比-6.0%と戦後最悪のマイナス幅を更新する。

景気下振れリスクも依然として大きい。増加していた感染者数は足元で減少に転じているが、収束した訳ではない。今後の感染状況次第では、消費者マインド悪化、自粛要請の強化などによる経済活動の抑制、企業の倒産、事業からの撤退、店舗閉鎖による雇用・所得環境の悪化などの動きが強まり、年度後半の景気回復ペースが急速に鈍化する懸念がある。また、新興国を中心に感染拡大が収まらず、世界経済の回復が遅れることも懸念材料である。

2021年度は、感染拡大による経済活動への制約が徐々に薄らいでくるうえに、東京オリンピック・パラリンピックの開催によるイベント効果の押し上げや5Gの本格的普及が進むこと、世界経済が本格的に立ち直ることなどを背景に、景気の持ち直しは続く。東京オリンピック・パラリンピック開催後にイベント効果の剥落で景気が弱含む局面があっても軽微にとどまり、年度での実質GDP成長率は前年比+3.7%と伸び率は急速に高まると予想するが、新型コロナウイルスの感染拡大前の水準(2019年10～12月期)まで回復するのは2022年度にずれ込む見込みである。

2. 住宅着工見通し (資料2)

住宅着工戸数は、月次で見ると全体では2019年後半から米中貿易摩擦による景気の減速等により、季節調整済年率換算値で90万戸を下回る水準に低下し、2020年4月からは、更に新型コロナウイルスの影響が強まったと見られ、年率80万戸前後で推移している。

2020年4月から7月の住宅着工戸数の累計は前年同期比で12.3%減となった。利用関係別の内訳をみると、持家、貸家、分譲一戸建で大幅に減少、分譲マンションはわずかに減少した。持家、貸家、分譲一戸建では、4月に出された緊急事態宣言を受け、営業の自粛、住宅展示場への来店者数の減少等により受注が減少したことが大きく影響したと考えられる。

一方、分譲マンションは着工までの準備期間等が長く、コスト面からもスケジュール通りに建設する必要があること等から減少幅は小さかったと考えられる。

受注状況も、2020年7月の住宅生産団体連合会による景況判断指数(受注実績)は、持家、貸家共に非常に厳しい結果となったが、7～9月の先の見通しは、多少改善が見込まれる。

2020年4～6月期のGDP一次速報に基づくシンクタンク(10機関)の予測によれば、2020年度の住宅着工戸数は平均78.4万戸と前回(78.8万戸)とほぼ横ばいとなった。

3. 住宅業界の動向 (資料3)

住団連が実施の住宅会社の「支店、営業所の営業責任者に対する住宅業況調査」の結果は、戸建注文住宅の2020年4～6月期の受注実績は、前の1～3月期に対し-59ポイント、金額でも-14ポイントと大きく後退した。

また、住団連の「低層住宅に関する経営者の景況感調査」では、対前年比の総受注戸数は-75ポイント、金額でも-71ポイントと5期連続のマイナスとなった。

これに対するコメントとしては、「新型コロナウイルス感染症の影響によりお客様との面談数が減り大幅な受注減」「緊急事態宣言に伴う集客・来場の大幅な減少が受注に大きく影響」等、新型コロナウイルスに関する意見が大部分であるが、一方で「WEB集客、リモート商談の強化」や「お客様が住宅を選ぶ時間が増えた」との明るい兆しもあるとのこと。

弊社の戸建住宅の受注も、新型コロナウイルスの影響はあるものの、WEBイベントの効果等もあり8月の受注は対前年比約25%増と改善。9月も住宅ローン減税拡充対象の受注期限となり一定の駆け込みが想定されるが、一方で、10月以降はそのような支援策等がなくなることから受注減が想定される。

4. 木材業界の動向（資料4）

販売量、仕入量について、6月、7月、8月は流通部門、製造部門共に大きく減少した。

販売価格、仕入価格は6月は流通部門、製造部門とも下降傾向、7月は、販売価格は両部門とも変わらず、仕入れ価格は両部門とも下降したのが見られた。8月は、流通部門、製造部門とも変わらず。

8月時点の3ヶ月後の相場予想に関しては、米材は流通部門でやや弱含み、製造部門は保ち合い、南洋材、北洋材（欧州材含む）は両部門とも保ち合い、国産材は、流通部門、製造部門とも弱含み、建材は保ち合いの予想。

6月、7月は、新型コロナウイルスの影響が大きく響き取扱量は減少。しかしながら、秋からは大手住宅メーカーの受注によりプレカットの稼働率が期待されるとの見方あり。8月は、プレカットは、年末に向けて回復基調にある。

5. 木質バイオマスの動向（資料5）

2020年度第1四半期（2020年4－6月）のバイオマス発電所の燃料調達量は、調査対象発電所の増加もあり、ほとんどの種類の燃料において前年同期より増加している。主なものは、未利用木質は約45.7万絶乾トン（前年同期比133%）、一般木質は36.8万絶乾トン（同118%）、PKSは21.7万絶乾トン（同190%）となっている。燃料調達量の内訳を見ると、未利用木質43%、一般木質が53%となっており前年度とほぼ同率となっている。

燃料材価格のうち、未利用木質の針葉樹チップ価格は横ばいであったものがわずかながら低下、一般木質の針葉樹チップ価格はわずかながら下落傾向が続いている。なお、価格の動向は地域によって差異があることに留意する必要がある。

未利用木質バイオマス発電所のFIT認定容量は増加し、そのうち容量ベースの導入済み割合は73%相当となっている。

令和2年度に運転開始を予定している発電所のうち燃料内訳が確認出来たのを見ると海外燃料が100万トン、未利用材が21万トンとなっている。内訳が明らかでないものも少なくないので、地域により今後も未利用材の需要増が想定される。

発電所は運転継続を要請されており、また、燃料材調達の量・価格は一定期間固定されていることから、需要には新型コロナウイルスの影響は及びにくいと考えられる。

6. 木材輸出の動向（資料6）

2020年1月から7月までの輸出数量は、丸太は80万^mで前年比10.9%増、製材は9万2千^mで3.2%増、合板は5万5千^mで22.5%減であった。

輸出総額は100億円前で前年比7.6%の減となった。国別には、中国が91億円（6.8%減）で輸出総額の47.3%を占め、第2位フィリピン34億円（26.4%減）、第3位韓国18億円（0.2%増）、第4位米国17億円（14.5%増）であった。

最大の輸出相手先である中国については、昨年来の欧州虫害木大量輸入による価格低下の影響が未だ残っているほか新型コロナウイルスの影響も加わり1～3月の輸出量の減少が大きかったが、4月以降、中国国内製材工場の稼働率が回復してきたことなどから、前年を上回るペースでの輸出量に回復している。

米国については、年当初まで高水準であった住宅着工戸数は、新型コロナウイルスの影響により4月を底に落ち込んでいたが、その後大きく回復してきており、日本からのスギフェンス材輸出についても、好調に推移している。

7. 紙・パルプ産業の需給動向 (資料7)

紙・板紙の国内出荷は、4月以降、新型コロナウイルスの影響を大きく受け、紙、板紙共にマイナス幅が急拡大。底となった5月は紙で前年比75.0%、板紙で91.1%となった。紙では、テレワークの導入、イベントの中止、販促広告の自粛等によるコピー用紙、カタログ、チラシ等の減少が影響し大幅減。板紙は、通販の需要が堅調に推移したものの、電気、機械器具等の輸出減から、製品の梱包材としての段ボール需要が大きく減少したことが影響し減少となった。

パルプの生産は、紙の生産減を反映して大幅減。古紙消費は、紙向けで大幅減、板紙向けでは微減。輸出は、中国の輸入ライセンス発給減から大幅減となる一方、ベトナム、台湾等の東南アジア向けが大きく伸び前年を上回った。

パルプ材の集荷は、針葉樹、広葉樹共に大幅に減少した。針葉樹では、板紙の生産が比較的小幅な減少で推移したこともあり、1割程度減にとどまったが、国産材の優先集荷により輸入材の集荷減が顕著。広葉樹では、昨年10月頃より製品の減産が続いているため集荷が抑えられていたが、4月以降さらに下降し、6月には3月の6割程度となっており、特に輸入材の減少が顕著となっている。

8. 国産材に関する動向 (資料8)

8月上旬の森連共販所平均価格は、スギ柱用材が10,800円/m³ (前月比700円高)、同中目材は10,800円/m³ (前月比500円高)。ヒノキ柱用材が14,100円/m³ (前月比500円高)、同中目材は14,800円/m³ (前月比1,200円高)となった。

7月の販売量は前年に比べスギ、ヒノキ共に大幅に減少。

出材調整が進み、豪雨の影響もあったことから、7月と比較して価格は強気配から全面高に相場が戻った。

一部の大型工場は手当てを進めているが、製品市況は依然として厳しく不安を抱えながら集荷している。実需の乏しさから今後の予測が大変困難であるため、業界全体が早く平常販売に戻ることを期待している。

バイオマス用原木は、引き続き安定的な需要によって全国の原木需要の下支えに貢献している。

9. 国産材丸太(製材用)の需要動向 (資料10 - P1)

2020年第2四半期の実績は、川下の需要側は、4～5月の緊急事態宣言中を除き、納期に間に合わせるための工事は続いたこともあり、プレカットを含めて予想していたほどの落ち込みは見られなかった。また、公共工事等についても継続されており、工事資材の需要は確保されていると考えられる。前年同期比で減少した。

第3四半期の見込みは、建築需要について、オリンピック・パラリンピック東京大会前までに竣工を予定していた物件等はほぼ工事が終了。注文住宅等については、今後、新型コロナウイルスの影響で受注活動が十分に出来なかった影響が出るのが予想される。前年同期比で減少の見込み。

第4四半期以降は、製品の在庫が減少しており、新型コロナウイルスの新規感染者数が現状のような状況で続き、各種のイベント等の再開が始まれば、春の受注減を取り戻すことを期待する。前年同期比では減少の見通し。

原木供給は、価格の低下、西日本の豪雨や台風の影響等から、地域によっては出材意欲の減退が見られ、地域間の差が徐々に大きくなっていると考えられる。中国向け輸出が順調に続く一方、国内の大型製材工場、合板工場等の受け入れ制限等で行き場のない原木の滞留は続いている。特徴的な川下の動きとしては、夏休みの期間縮小に伴う学校改修工事、リモートワークの普及・定着による都市部オフィス需要減からの改修・内装工事等は減少している一方で、ホームセンター等の木材製品売り上げは伸びている等の声も聞かれた。

10. 国産材丸太(合板用)の需要動向 (資料10 - P1)

2020年第2四半期の実績は、新型コロナウイルスの影響による景況の悪化で、合板各メーカーが減産体制をとり、丸太の受入れが制限されたことから、前年同期比で減少となった。

第3四半期は、新型コロナウイルスの影響の継続により引き続き生産調整を行うメーカーもあり、前年同

期比で減少の見込み。

第4四半期も、前期と同様の要因により、前年同期比で減少の見通し。

2021年第1四半期は、徐々に新型コロナウイルスの影響が緩和されることを期待し、前期より需要増を見込む。前年同期比では減少の見通し。

11. 米材丸太の需要動向 (資料10 - P2)

2020年第2四半期の実績は、昨年10月の消費増税以降の需要反動減が深刻な上、新型コロナウイルスの影響による経済活動全般の自粛、住宅建築需要の低下、国内合板の大幅な減産の影響をうけ、前期比、前年同期比で減少した。

第3四半期は、新型コロナウイルスの影響は継続中で、住宅着工をはじめ木材需要は総じて大幅な減少が続いており、引き続き需要は低調に推移すると予測。前期比で若干増加するも、前年同期比では減少の見込み。

第4四半期は、前期同様の需要規模が続くと予測。過去にもない最低レベルの需要ではあるが、回復の兆しは見いだせない。前期比、前年同期比共に減少の見通し。

2021年第1四半期は、必要最低限の需要規模で引き続き推移すると予測。前期比で増加、前年同期比では減少の見通し。

今後の需要に影響がありそうな、新型コロナウイルスの収束時期、政府による政策的な需要喚起策、米国大統領選挙結果、米中貿易問題、東京五輪の開催動向等に注視する必要。

12. 米材製材品の需要動向 (資料10 - P2)

2020年第2四半期の実績は、需要家が年度末決算を越えて資材調達に動いたと見られることや、緊急事態宣言発令前の販促活動に受注があり、プレカット工場も順調に稼働したものの、全般的な住宅着工数の減少もあり、前期比では増加したが前年同期比では10%の減少となった。

第3四半期は、新型コロナウイルス対策で発令された緊急事態宣言の影響により、5月の大型連休中に住宅展示場での販促が出来ず新規受注が減少、また、夏季休業等で施工現場に遅れも生じている。米国の米マツ製品が10月から値上げのため、国内相場が上がる前に早めの資材調達の傾向があり、9月に入り若干需要増の様子だが、前期比、前年同期比共に減少の見込み。

第4四半期は、現地での丸太調達が対日向け製品価格に合わず難しい状況のため、日本向け米材製品10月積みは減少。今後の価格上昇を予測し、港頭現物在庫への引き合いが強まると予測し、前期比では増加するも前年同期比では減少の見通し。

2021年第1四半期は、輸入はディメンション価格高騰のため買い切れず入荷は減少し、価格上昇が抑えられている在来工法を選択する施主も出てくると予測する。産地のストライキ等により入荷が少なかった前年同期並の需要はあると見通す。

13. 北洋材丸太の需要動向 (資料10 - P4)

2020年第2四半期の実績は、新型コロナウイルスの影響による合板工場、製材工場の入荷抑制、住宅工事の遅れ等により前年同期比で半減すると予想していたが、建設現場がそれなりに動いたことにより思いのほか減少幅が緩和され、前年同期比で約28%減となった。

第3四半期は、季節的に入荷が減少する傾向があり、加えて新型コロナウイルスの影響もあり、7月の単月入荷が無かったことなど今後も厳しくなることが予想される。前年同期比約50%減の見込み。

第4四半期は、新型コロナウイルスの影響から合板、製材共に減産が継続することが予想され、前年同期比で約50%減の見通し。

2021年第1四半期は、新型コロナウイルスの影響が継続すると予測し、前年同期比で約50%減の見通し。

14. ニュージーランド・チリ材 需要動向 (資料10 - P5)

(1) ニュージーランド材丸太の需要について

2020年第2四半期の実績は、梱包材の最終需要家である大手企業の決算後の低需要期であり、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響が顕著に出て、梱包用原木需要は大幅に減少すると予測してい

た。前年同期比で約25%の減少となったが、思っていたほどの減少幅ではなかった。

第3四半期は、中国、米国向け輸出は回復基調にあるが、新型コロナウイルスの影響による移動制限や夏季休暇シーズンにより内需は盛り上がりには欠け、荷動きは極めて低調。内地挽き各社とも2～3割の減産を続けており、前期同様の需要推移となる。前年同期比で大幅に減少の見通し。

第4四半期は、通常の高需要期に入るため需要は上向いていくが、新型コロナウイルスの後遺症から徐々に脱却し、輸出・設備・公共投資共に前年プラスに転じると予測。前年同期比で増加の見通し。

2021年は、新型コロナウイルスの影響による梱包需要の長期低迷からの再起の年となり、内需外需とも上向き梱包市況は好転すると予想。第1四半期は、前年同期並となる見通し。

(2) ニュージーランド・チリ材製材品の需要について

2020年第2四半期の実績は、決算後の低需要期である上、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響が最も顕著に出た四半期となり、梱包材需要は大幅に減少した。チリ材の在庫が膨らみ、下半期の減便を余儀なくされた。前年同期比で47%減となった。

第3四半期も、新型コロナウイルスの影響は一部の国を除き世界的にはピークアウトとは言い難く、輸出も対前年比マイナスが継続。移動制限や3密回避から内需も低調なままで、チリ製材品の過剰在庫調整も第4四半期にずれ込むと予想。梱包材需要の低迷継続で前年同期比で減少の見込み。

第4四半期は、例年クリスマスと年末を控え高需要期に入る時期であり、新型コロナウイルスの後遺症から徐々に脱却し、輸出、設備投資、公共投資とも前年比プラスに転じると予測。米中の貿易問題の影響が大きかった前年同期よりは増加の見通し。

2021年第1四半期は、丸太同様再起の年となり内需外需とも上向き梱包材市況は好転すると予想。前年同期比で増加の見通し。

15. 米材、欧州材、北洋材、輸入集成材の供給動向

(1) 米材丸太の供給について (資料10 - P2)

2020年第2四半期の実績は、カナダ大手私有林伐採供給業者が昨年11月より無期限の伐採停止を実行。アメリカ産米マツの供給増で、製材工場、合板工場向けの配船をしたものの、全体では入荷減となった。前年同期比で減少。

第3四半期は、日本国内最大手米マツ製材工場がアメリカ産米マツの配船数を減、カナダ大手私有林伐採業者が昨年生産済みの原木を一部販売。入荷数量は前期比で増加、前年同期比で減少の見込み。

第4四半期は、国内大手製材工場の配船減とカナダ伐採業者の伐採再開による入荷増を予想。前期比、前年同期比共に減少の見通し。

2021年第1四半期は、現地(カナダ)のクリスマス休暇、アメリカ向け需要増、日本国内大手製材工場の配船減により、供給は減少すると予想。前期比で増加も、前年同期比では減少の見通し。

(2) 米材製材品の供給について (資料10 - P2)

2020年第2四半期の実績は、米ツガ製品が大手サプライヤーのストライキ解消により生産が再開され入荷が増加。米マツは生産・出荷遅れによる入荷減、SPFはオリンピック開催による荷役等の混乱を想定し、一部入荷が前倒しされたため入荷増。全体では前期比で増加、前年同期比で減少した。

第3四半期は、新型コロナウイルスの影響を含んだ需要減を踏まえ契約量が減少。前期比、前年同期比共に減少の見込み。

第4四半期は、第4四半期契約の10-11月積は、好調な北米市場の影響で日本向け価格も高騰しており、日本国内の住宅着工減と合わせ、契約量は減少すると予想。前年同期比で減少の見通し。

2021年第1四半期は、北米市場も落ち着き、現地価格も和らいでくることが想定される一方で、年度末に向けた在庫調整等の季節要因により契約量・入荷量は低水準と予想する。前期比で減少するも、2020年第1四半期は大手サプライヤーのストライキ等により入荷が大きく減少していたことから、前年同期比では微増の見通し。

(3) 欧州材製材品の供給について (資料10 - P2)

2020年第2四半期の実績は、フィンランド企業のストライキにより入港量が減ると予想されたが、スウェーデンからの入港量が増加。フィンランドもひと月遅れながら入港量が戻ったが、結果的に前期比で増加、前年同期比で減少した。

第3四半期は、北欧からの原材料（ラミナ、原板等）は4-5月契約の生産遅れ分が7月～8月に十分に入ってくるが、9月は現地夏休みの関係で入港量は減少、中欧からの建築材（羽柄材等）は7/8月積み込みの契約数量減により、9月入港は少ないと予測。前期比、前年同期比共に減少の見込み。

第4四半期は、新型コロナウイルスによる荷動きの低下の影響を受け契約数量が減少した第3四半期契約分の入港時期であり、建築材、原材料共に入港数量は少ないと予測。前年同期比で減少の見込み。

2021年第1四半期は、建築材では国内在庫も適正レベルに近づくため、11/12月の契約量は回復していくと予想。原材料の契約も通常レベルを想定。ほぼ前年同期並の見込み。

(4) 北洋材丸太の供給について（資料10 - P4）

2020年第2四半期の実績は、需要家の合板工場、LVL工場、製材工場は製品の低調な荷動きを受けて減産で対応しており、新規の原木手当てを見合わせる動きで、入荷数量は大きく減少した。原材料であるロシアカラマツはその品質特性から一定の評価を得ているが、価格の居所が高く他樹種の代替としての需要も見られなかった。前年同期比で大幅に減少した。

第3四半期は、国内工場の減産体制は継続しており、原木の消費も減っていることから、入荷も低調に推移する見込み。本船単位（4～6千m³）で仕入れを行う合板工場の需要は当期にはないものと見られ、前年同期比では大幅に減少の見込み。

第4四半期は、新型コロナウイルスの影響が継続し、国内工場の減産も続く見込まれる。需要に見合った製品製造に限られての入荷があると予想。前期比では増加、前年同期比では大幅に減少の見込み。

2021年第1四半期は、国内工場の減産体制が徐々に解消されると予想。北洋材原木の在庫は低水準になっているとみられ、生産に必要な数量の買付が始まるものと予想。前年同期比で増加の見込み。

北洋材原木から国産カラマツ原木への置換に注視。

(5) 北洋材製材品の供給について（資料10 - P4）

2020年第2四半期の実績は、第1四半期に引き続き、現地サプライヤーは各社順調に生産・出荷できているが、新型コロナウイルスの影響や港頭在庫増加により2～4月頃の新規契約が少なかったため、前期比、前年同期比共に減少となった。

第3四半期は、第1、第2四半期の順調に入荷したが、国内需要は低迷しているため、8月末の国内在庫が、関東では半年分まで増加した。このため、流通各社は6月以降の新規契約を大幅に減らしたことで、現地が夏場に入り丸太出材が減少し工場での生産量も低下したことから、大きく入港が減少。前期比、前年同期比共に減少の見込み。

第4四半期は、前期同様の理由により、当面入荷量は減少すると予想。前年同期比で減少の見込み。

2021年第1四半期は、国内在庫が減少し徐々に新規契約量が増加。入港量もすこしずつ上向くが、入港が順調であった昨年レベルまでは届かないと予想。前期比で増加も、前年同期比では減少の見込み。

(6) 輸入構造用集成材の供給について（資料10 - P7）

2020年第2四半期の実績は、フィンランドでの2月、3月のストライキによる生産減少と、新型コロナウイルスの影響によるコンテナ不足により入港が遅れた分が第2四半期に入港。また、第2四半期の成約量が増加したため6月より入港が増加した結果、前期比、前年同期比共に増加となった。

第3四半期は、第2四半期の成約量が増加していることから、入荷量も増加すると予想。前期比、前年同期比共に増加の見込み。

第4四半期は、第2四半期の受注量が多かったため第3四半期の契約量は減少。10-12月の入荷は減少していくと予想。前期比で減少するも、前年同期比では増加の見込み。

2021年第1四半期は、既契約分の船積遅れの解消に時間がかかっているが、2020年第4四半期の契約数量は第3四半期からは戻ると予想。ストライキの影響等を受けた前年同期より増加の見込み。

16. ニュージーランド・チリ材の供給動向 (資料10 - P5)

(1) ニュージーランド材丸太の供給について

2020年第2四半期の実績は、ニュージーランドにおいて、3月下旬から約1ヶ月間、新型コロナウイルス感染対策によるロックダウンのため原木輸出不可となり、5月の入荷はほぼ無かった。一部船積み出来たものが6月に入港したが、前年同期比で25%以上減少した。

第3、第4四半期は、新型コロナウイルスの影響により、配船数量が減少、配船間隔も拡大しており、前年同期比で若干減少する見込み及び見通し。

2021年第1四半期は、梱包市場回復の兆しは見られず、需要に見合った入荷が見込まれる。前年同期並みの見通し。

ラジアタ松丸太の主な揚港は松永、須崎であり、30～50日間隔の配船頻度でまとまった数量が輸入されるため、本船の入港タイミング次第で四半期供給予想が大きく前後する。配船予定では2020年第4四半期までの入港が見込まれているため、前年同期に近い数量の入荷を予想しているが、実需は低いままで、回復が見られている訳ではない。

(2) ニュージーランド・チリ材製材品の供給について

2020年第2四半期の実績は、2019年前半の大量入荷による流通在庫の増加に加え、新型コロナウイルスの影響による輸出不振により梱包低迷。前期に続き低水準の入荷となり、前年同期比で45%の減少となった。

第3四半期は、前年の第3四半期以降低水準の入荷が続いていたが、新型コロナウイルスの影響による不振からの回復を狙う動きもあり、前期比で増加する見込み。チリ本船も7月入荷は多く、前年同期比でも増加の見込み。

第4四半期は、前期同様の動きとなると予想。梱包市況も大底を脱し、入荷水準は多少回復すると予想する。前年同期比で増加の見通し。

2021年第1四半期は、梱包市況も底打ちするも、引き続き新型コロナウイルスの影響は残ると予想。2020年全体の入荷は2019年に比べ15%減少したが、その水準からは戻すと予想。前年同期比で増加の見通し。

17. 南洋材丸太(製材用)、南洋材製材品の需要動向 (資料10 - P3)

(1) 南洋材丸太(製材用)の需要について

2020年第2四半期の実績は、前期に引き続き、輸出用梱包材を含め全般に荷動きが低調であったため、前期比で5%程度減少した。なお、前年実績が大幅に減少していた期のため、前年同期比は130%と増加した。

第3四半期は、新型コロナウイルスの影響により自動車など重要物の輸送は低迷し、梱包用、ダンネージ材などの需要回復は厳しい状況と見込んでおり、引き続き低調と予想。前期比で減少、ほぼ前年同期並みとなる見込み。

第4四半期は、例年需要の見込める期ではあるが、新型のコロナウイルスの影響により需要回復は不透明で、輸出関係は引き続き厳しい状況で推移すると思われ、前期程度の需要と予想。前年同期比では減少の見通し。

2021年第1四半期は、オリンピック開催等に向け、国内も含めアジア圏を中心に需要は回復に向かうと期待し、前期比で増加、前年同期比並みの見通し。

(2) 南洋材製材品の需要について

2020年第2四半期の実績は、新型コロナウイルスの影響により緊急事態宣言が発令され、営業活動等が抑制されたが、建設現場での作業は継続していたこともあり実需に大きな変化は見られず、前期比で増加、前年同期比でも若干増加した。

第3四半期は、緊急事態宣言が解除され、徐々に営業活動が再開しているが、夏期に多い学校関係の改修工事や商業施設の内装工事は中止や延期となり実需減少。需要は前期比、前年同期比共に若干減少の見込み。

第4四半期は、新型コロナウイルスの影響により店舗、商業施設関係は厳しい状況であり収益の上から先が多く設備等への投資も難しいと予想。前期比、前年同期比共に減少の見通し。

2021年第1四半期は、新型コロナウイルスの影響により遅れていた改修工事等の物件に期待し、前期並みの需要を見込む。なお、前年はオリンピック関連の先取りが見られ大幅に減少した期であったため、前年同期比では増加の見通し。

18. 南洋材丸太（合板用）の需要動向（資料10－P3）

2020年第2四半期の実績は、国産針葉樹合板へのシフトの進行、丸太産地価格の高止まり、産地の違法伐採対策等環境問題の影響増大、サバ州の丸太輸出禁止の継続等により減少傾向であることに加え、新型コロナウイルスの影響による産地からの丸太の供給減や、合板の国内需要の低迷により丸太の需要も減少し、前年同期比で約47%の大幅な減少となった。

第3四半期は、新型コロナウイルスの影響は継続。南洋材合板生産大手が2021年3月で解散を表明し、原料の入荷も次第に減少していくため、前年同期比で60%減少の見込み。

第4四半期以降は、南洋材合板生産大手の入荷がほぼなくなるため前年同期比で7割程度減少する見通し。

19. 国産、輸入合板の需要動向（資料10－P6）

(1) 国内製造合板の需要について

2020年第2四半期の実績は、新型コロナウイルスの影響により、住宅部品生産の遅れからの工期遅れや契約キャンセルも加わり、予想を超える大幅な需要減となった。

第3四半期は、国内針葉樹合板は、8月末から荷動きが回復傾向にあり、単価も下げ止まっているが反転する勢いには至っていない。前期比並み、前年同期比で大幅に減少の見込み。

第4四半期は、現在の供給側の減産計画の動向が読みづらいところではあるが、単価の下げ止まり、減産による品薄アイテムの出現状況から値戻しのタイミングとしてはチャンスと考える。長引く当用買いの状況でプレカット工場等では手持ち在庫量の減少が進み、買い姿勢につながる可能性もあると予測。前期より回復するも前年同期比では減少の見通し。

2021年第1四半期は、プレカット工場等の手持ち在庫の減少により、需要は少しずつ回復することを期待するも、劇的な増加は見込めず前年同期比で減少の見通し。

(2) 輸入合板の需要について

2020年第2四半期の実績は、当用買い中心の需要であり、稼働を再開したマレーシア現地工場も通常生産にはほど遠い状況であった。前期比、前年同期比共に減少した。

第3四半期は、入荷量は大幅に減少しているが、需要家に大きな反応は見られない。港頭在庫が減少し一部品薄のアイテムが散見されてもトラブルはなく、秋需に向け現場は進行しているものの需要量に大きな変化はない。前期比、前年同期比共に減少の見込み。

第4四半期は、秋需が進行すると塗装型枠合板の引き合いの増加が予想されるが、現地マレーシア、インドネシアでは生産を停止している工場も増加しており供給の不安は残る。単価は大きな供給トラブルに発展しない限り値戻しに向かうのは難しいと予想。前期並みで前年同期比では減少の見通し。

2021年第1四半期は、輸入合板から国内合板や他材料に転換したアイテムが元に戻ることは考えにくく、供給量を維持してきた塗装型枠合板も、単価や環境スペックへの対応はシッパーにおいては厳しい状況。前年同期比で減少の見通し。

20. 南洋材、輸入合板の供給動向

(1) 南洋材丸太の供給について（資料10－P3）

2020年第2四半期の実績は、新型コロナウイルスの影響により、南洋材産出国であるマレーシア、パプアニューギニアにおいて緊急事態宣言が発令されたため、3月以降は輸出向け船舶に対しても厳しい検疫を課せられたことから思うように配船できなくなった。産地側の雨期による出材不足により入荷が減少した前期に比べ増加したが、前年同期比では約24%減少した。

第3四半期は、新型コロナウイルスの影響による需要減退により入荷量は大幅に減少。また、6月に、新潟の南洋材合板国内製造の大手メーカーから2021年3月末をもって操業停止することが発表され、新潟向け配船も見送られたため、前期比で50%以上、前年同期比で40%以上減少の見込み。

第4四半期は、合板、製材用共に新型コロナウイルスの影響による需要減退に歯止めが掛からず、国内生産が20～30%減産の状況下において入荷量も少ないと予想。前期比で減少、前年同期比では70%以上減少の見通し。

2021年第1四半期は、新潟の大手合板メーカーの操業停止により、大幅な入荷減となる予想。前年同期比で大きく減少する見通し。

(2) 南洋材製材品の供給について (資料10 - P3)

2020年第2四半期の実績は、DIYが好調でフリー板の引き合いに生産側が対応したため、前期比で増加したものの、コスト高から需要は縮小しており、前年同期比では減少した。

第3四半期は、新型コロナウイルスが沈静化せず影響が長引いており、7月の取引も低調であったことから、前期よりやや減少し、前年同期比も減少する見込み。

第4四半期は、新型コロナウイルスの影響により、全体の需要が減少すると予想し、前期比並み、前年同期比で減少する見通し。

2021年第1四半期も、漸減傾向で全体需要が縮小していくと予想。ほぼ前年同期並みの見通し。

(3) 輸入合板の供給について (資料10 - P6)

2020年第2四半期の実績は、新型コロナウイルスの影響による供給不安から、第1四半期に中国合板、LVLを中心に駆け込み契約が発生。また、一時的にホームセンター向けの巣ごもり需要もあり、ほぼ、前年同期並みとなった。

第3四半期は、新型コロナウイルスの影響による急激な需要減、特にイベント関係に使用される合板需要はほぼ無くなっているような状況下にもかかわらず、第2四半期に前年と同レベルの入荷があったことから、当期の新規契約が減少。このため価格も値下げ傾向となり、各社様子見で更に契約量が減少。前期比、前年同期比共に減少の見込み。

第4四半期は、前期の急激な入港減により各社在庫調整が終わり、輸入量は微増するが、クリスマス、初詣等冬のイベント関係は中止継続し、また、非住宅需要も回復しないと予想。前年同期比では20%減少の見通し。

2021年第1四半期は、前期同様に需要は戻らず供給過多の状況は変化しないと予想。前年同期比で減少の見通し。日本国内需要がどこまで回復出来るかがポイントとなる。

21. 国内製造合板の供給について (資料10 - P6)

2020年第2四半期の実績は、新型コロナウイルスの影響による合板需要の減少、価格の低下等景況の悪化により、合板各メーカーが1～3割減産し需給調整を行ったことから、前年同期比で15%程度減少した。

第3四半期も、新型コロナウイルスの影響は継続すると予想。引き続き生産調整を行うメーカーもあり、前年同期比で減少の見込み。

第4四半期も前期同様の動きで、前年同期比で減少の見通し。

2021年第1四半期は、徐々に新型コロナウイルスの影響が緩和されることを期待するも、前年同期比では減少の見通し。

需要の動向により、不足が生じるようならいつでも増産出来るように体制を整えている。

22. 国内製造構造用集成材の供給動向 (資料10 - P7)

2020年第2四半期の実績は、新型コロナウイルスの影響も限定的で比較的順調に推移した。前年同期比で微減にとどまった。

第3四半期は、新型コロナウイルスの影響による春先の住宅販売活動の制限、着工遅れ等の影響が現れており、前期比、前年同期比共に減少の見込み。

第4四半期は、受注増を期待する声もあるが、新型コロナウイルスの影響が引き続き現れるものと予想。

駆け込み需要のあった前年同期と比して大幅に減少の見通し。

2021年第1四半期は、稼働日数も少なく景気動向が不透明なこともあり、前期同様の供給となると予測。前年同期比で減少の見通し。

集成材は構造用の他に造作用もあるが、造作用集成材のメーカーも受注減等で先が見えず苦勞している。